

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。  
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

## 電子データの取扱いについて

### 電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。  
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

### 著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。  
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

### 保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

### お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願ひいたします。

### 免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。  
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。  
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

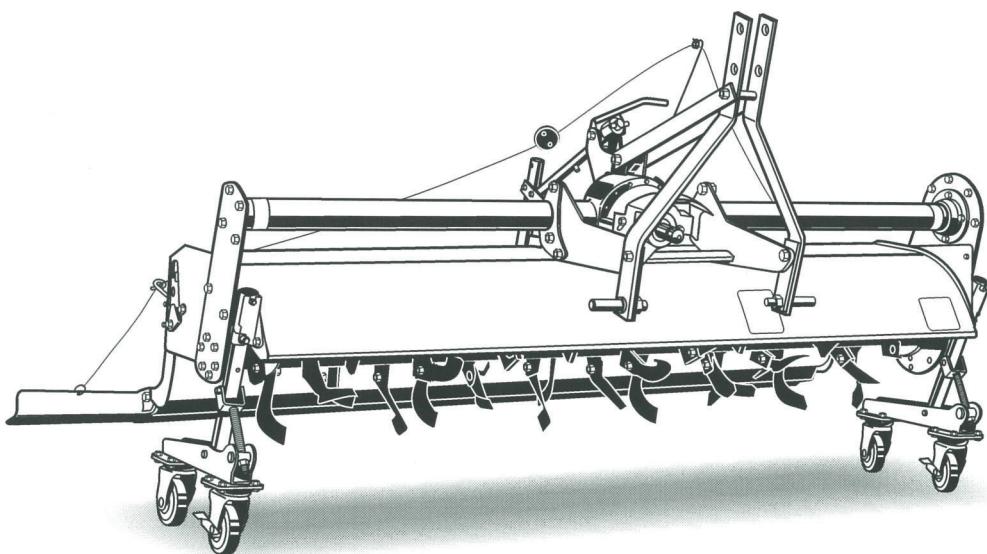
以上

小橋工業株式会社

# コバシパティーハロー

## 取扱説明書

PC168・188・208



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こす恐れがあります。  
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

**KOBASHI**

# はじめに

このたびは、コバシパディーハローをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、パディーハローの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。又、パディーハローを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

## ▲ 安全作業のポイント

- ◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。
- ◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。  
必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

- ▲ 危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
- ▲ 警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
- ▲ 注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。
- 取扱上の注意**…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

## パディーハローの使用目的・使用範囲

このパディーハローは代かき専用作業機です。

ダイレクトでの耕うん・碎土作業・重作業には使用できません。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

# 目 次

<b>▲ 安全に作業するために</b>	1	スタンドの調整	11
① はじめに	1	① 標準 3P直装ヒッチの場合	11
② 作業の前に	1	② 特殊 3Pヒッチの場合	11
③ トラクタへの着脱	1	③ 2Pヒッチの場合	11
④ 防護カバー類の取付け	2	上手な作業の仕方	12
⑤ 装着時の前後バランスの確認	2	① 圃場の準備	12
⑥ トラックへの積み・降ろし	2	② 作業速度と PTO軸回転数と深さ	12
⑦ 一般走行	3	③ 作業深さの調整	12
⑧ 圃場への出入り	3	④ エクステンションレバの操作	13
⑨ 作業をしているとき	3	⑤ 土寄せ作業	13
⑩ 作業中の点検	4	⑥ 代かき作業	14
⑪ トラクタを止めるとき	4	⑦ エプロンの固定操作	14
⑫ その他	4	代かき爪の取付け	15
<b>▲ 安全ラベルの取扱い</b>	5	① 爪の種類と本数	15
サービスと保証について	6	② 代かき爪取付方法	15
各部の名称	7	③ 爪配列図	16
作業前の点検	8	保守・点検	17
① 各部のボルト・ナットのゆるみ	87	保管・格納	19
② ギヤーケースのオイル量	8	点検整備一覧表	20
③ チェンケースのオイル量	8	異常診断一覧表	21
④ ジョイントのノックピン	9	用語解説	23
⑤ 空転、暖機運転	9		
移動・圃場への出入り	10		

# ⚠ 安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。  
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

## 1 はじめに

- 1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。  
トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。  
機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

- 1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

- 1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



- 1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



- 1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



- 1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



- 1-7 共同作業者がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

- 1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

## 2 作業の前に

- 2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れると、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



## 3 トラクタへの着脱

- 3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

## ▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつもも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。

- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。

- 3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、又作業機入力軸溝にはまつたか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



## 4 防護カバー類の取付け

- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

## 5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認

作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たく

なる場合もありますので注意してください。又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

## 6 トラックへの積み・降ろし

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。

- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。

- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。

- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションレバーラもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

## ▲安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

### 7 一般走行

7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱等に引っかけて事故の原因になります。



7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。

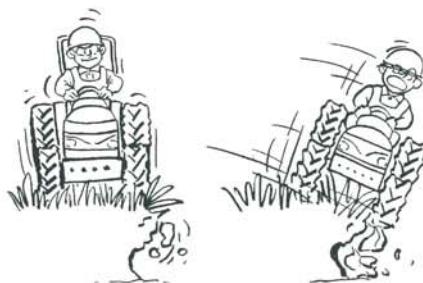
7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたためる箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

### 8 圏場への出入り

8-1 圏場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圏場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

### 9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようならかじめ体調を整えてください。

## ▲安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
- 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節してください。



- 9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

## 10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれているこ

とを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



- 10-2 点検のために外した安全カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



- 10-3 ラジエータ、マフラーは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

## 11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



## 12 その他

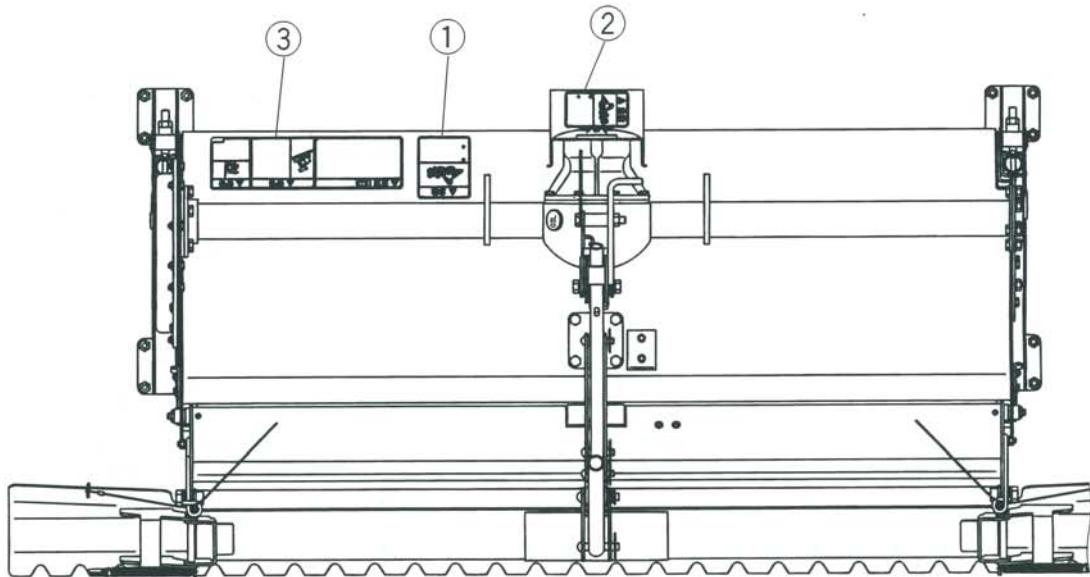
- 12-1 作業機指定のPTO回転数を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

- 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

# 安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシパディーハローには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



# サービスと保証について

## 1 保証書について

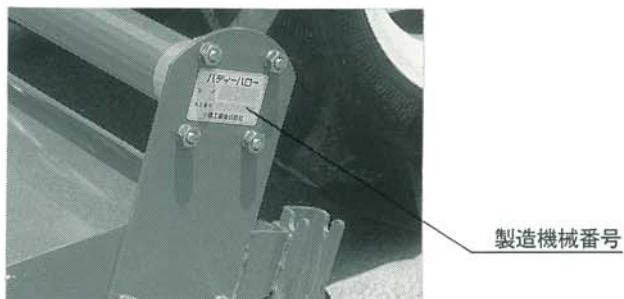
コバシパディーハローには保証書が添付しております。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

## 2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- ビのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



## 補修用部品の供給年限について

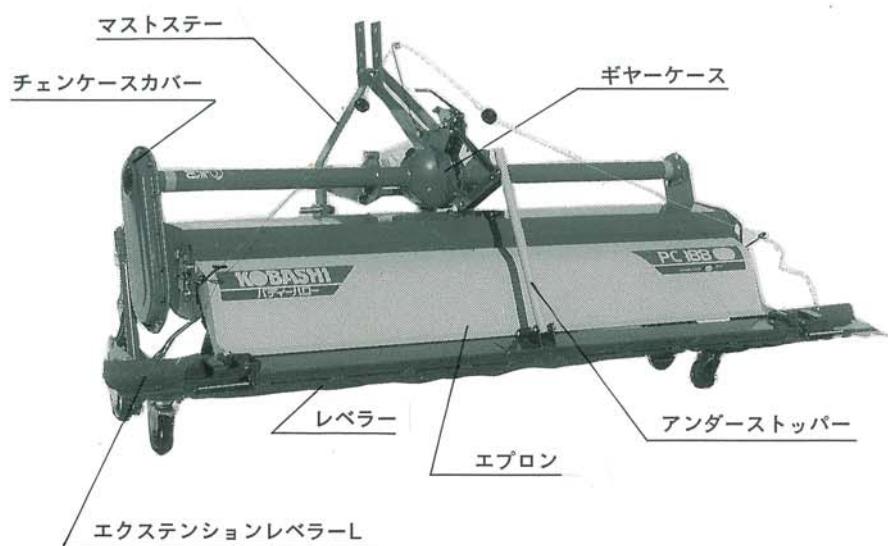
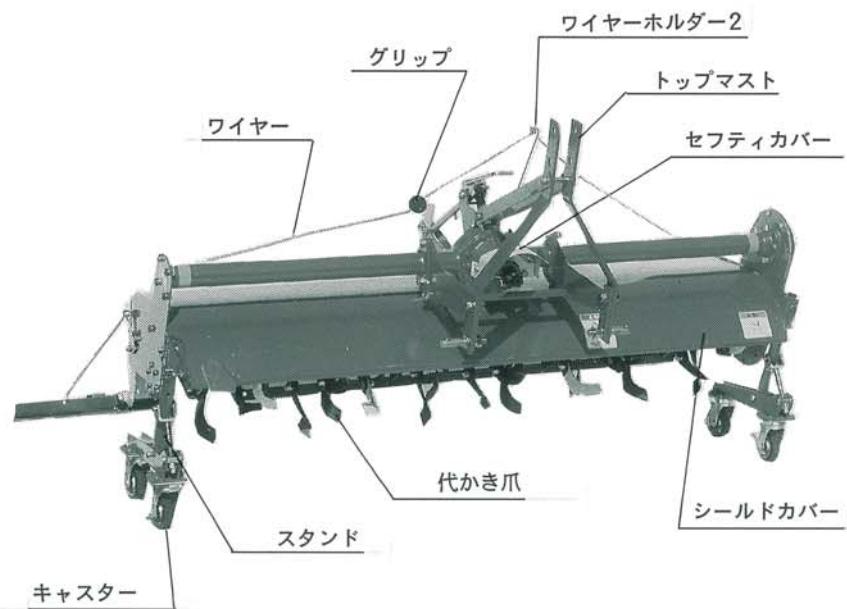
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といいたします。

従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

## 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 各部の名称



# 作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

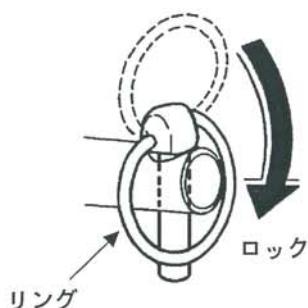
## ⚠ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクターのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は油圧を下げる地面に着けてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に挟んで、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

## ① 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。

又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



## ② ギヤーケースのオイル量

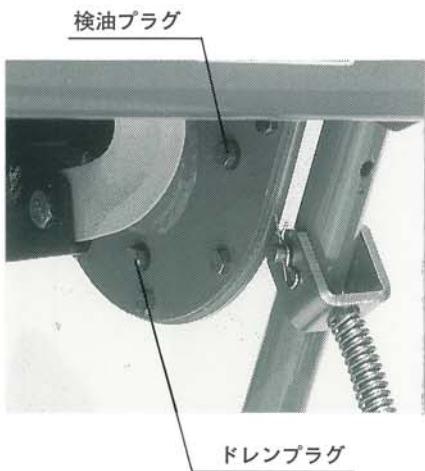
ギヤーケースの下部のドレンプラグを緩めて、オイルがあるか確認してください。  
少ない場合は補給してください。  
(#90 0.7ℓ)



## ③ チェンケースのオイル量

チェンケースの後部に検油ボルトがありますので、プラグをゆるめてオイルがあるか確認してください。プラグ面よりオイルが少ない場合は、プラグ面まで補給してください。  
(ギヤーオイル#90)





#### ④ ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクター側、作業機側のノックピンを確認してください。



#### ⑤ 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。

又、暖機運転を 5~10分行ってください。

## 移動、圃場への出入り

### ⚠ 警告

1. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の耕うん軸の回転を止めてください。又、チェックチェンも確実に張れているか確認してください。
2. 移動の際は、エクステンションレベラーがたたまれていることを必ず確認してください。
3. トラックへの積み込み、坂の登りに、トラクターの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
4. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急速発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
5. 匝場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、畦や段差に対して直角に進んでください。  
畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

# スタンドの調整

パディーハローは、トラクターへの装着及び保管が便利な様、キャスター付のスタンドを装備しています。

トラクターの装着方法の種類により、高さの調整方法が異なります。

以下を参考に調整してください。

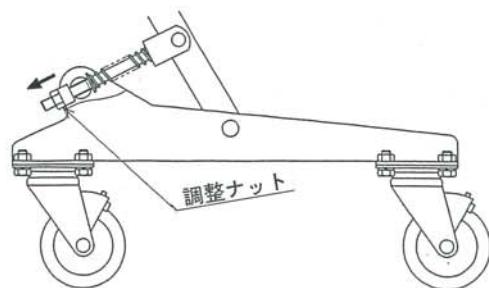
## ① 標準 3 P 直装ヒッチの場合

スタンドの調整は、不要です。

工場出荷時の状態で装着できます。

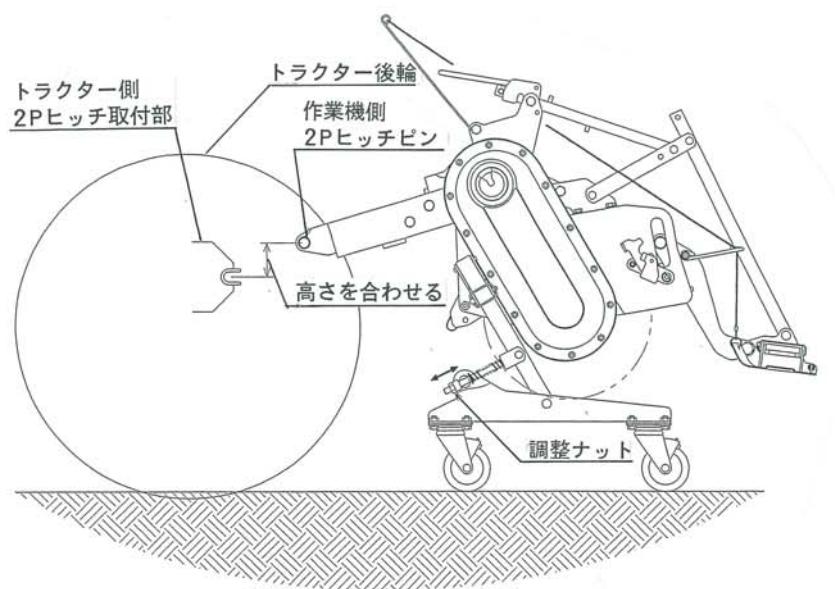
## ② 特殊 3 P ヒッチの場合

基本的に調整は不要ですが、オートヒッチによる装着において、トップピンが低すぎて装着できない場合は、調整ナット（左右共）により、調整してください。



## ③ 2 P ヒッチの場合

トラクター側 2 P ヒッチ取付部と作業機側 2 P ヒッチピンの高さが一致する様、調整ナット（左右共）により調整してください。



### ⚠ 注意

スタンド調整後、作業機を前下方向に押し下げることもできます。

微妙な高さの調整をするときにご使用ください。

# 上手な作業の仕方

代かきは、水田の水持ちをよくし、移植による苗の活着を容易にするような圃場条件にするために行います。特に表面の均平は土寄せ板を利用して十分に行ってください。

## ① 圃場の準備

- 耕うん作業は、一定の深さで平に、残耕がないようにしておくと、代かきは楽になります。
- 水は一日前に入れ、水量は少なめの方が良好です。但し、少なすぎると土の抵抗は大きくなり、多すぎると土の移動により均平性が悪くなり、又、雑草やワラが水に浮きます。

### ▲ 注意

- 運転中は危険ですから、トラクター及び作業機の周囲には、補助作業者や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。
- 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は、必ずトラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
- 畦際での作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。
- 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

## ② 作業速度とPTO軸回転数と深さ

パディーハローによる代かき作業は、一枚の圃場では、できるだけ同じ作業速度、同じPTO軸回転数を保つことが、精度の高い仕上がりにするコツとなります。碎土の程度は、PTO軸回転数が同じであれば、

作業速度が速くなると…荒くなります  
作業速度が遅くなると…細かくなります

PTO軸回転数をあまり高くし過ぎると、均平が悪くなります。

作業速度 … 2~5 km/h

PTO変速 … 1~3 速

作業深さ

重い地質 … 碎土し過ぎると酸素欠乏になるので浅目にする

軽い地質 … 水持ちが悪いので深目にする

### 取扱上の注意

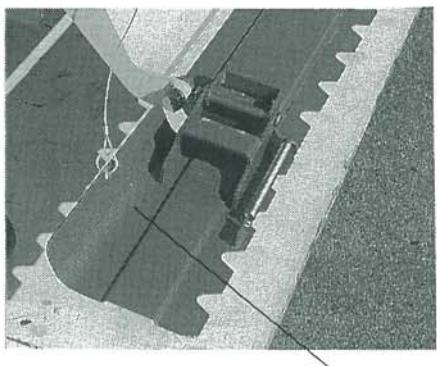
- 逆転での作業はしないでください。
- 土地条件に応じた作業速度、PTO軸回転数、深さを選んでください。  
尚、石の多い圃場では、作業速度は遅くし、PTO軸回転数も下げて使用してください。

## ③ 作業深さの調整

- 作業深さの規制は、トラクターの油圧ポジションコントロールレバー、または、オート装置装置で行ってください。
- オートの取付方法は、オートの取付要領書を、使用方法はトラクターの取扱説明書を参照してください。

## ④ エクステンションレベラーの操作

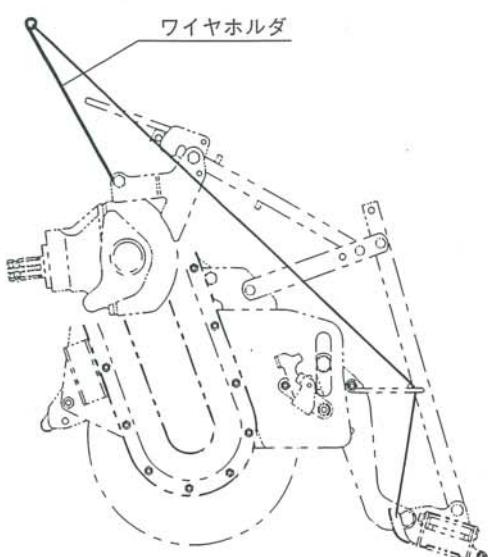
左右のエクステンションレベラーは、トラクターに乗ったままワイヤーのグリップをにぎり、ワイヤーを強く引き上げ、エクステンションレベラーが立った所ですぐゆるめるようにすると、スプリングの力で開閉します。



### 取扱い上の注意

組立時ワイヤホルダの調整ができていない場合、延長レベラの開閉操作ができなかったり、走行時ワイヤがトラクターのタイヤに巻き込まれたりするおそれがあります。

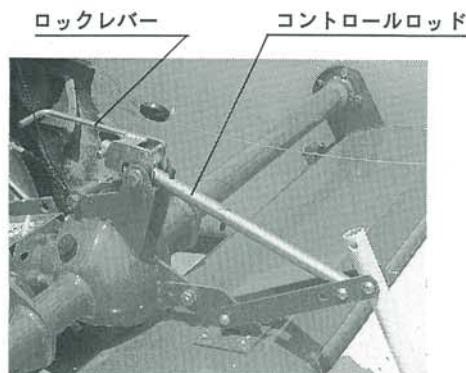
トラクターのポジションレバーを一杯に上げた時にワイヤホルダがトラクターに接触しない範囲でできる限りトラクター側に倒し、延長レベラの開閉操作をしやすい位置で固定してください。



## ⑤ 土寄せ作業

圃場に高低差がある場合は、代かき作業を行う前に、あらかじめ高い所の土を低いところ引き寄せる土寄せ作業を行います。

1. 作業を開始する前に、水面からの土の露出状態をよく見て、どのあたりの土をどこへ引き寄せるか、あらかじめ決めておいてください。
2. 土寄せ作業を行う場合は作業機を持ち上げ、ロックレバーを上方向へ持ち上げ、レベラーが下がった後、ロックレバーを再度下げます。コントロールロッドはロックされて、土寄せ作業の状態になります。



3. PTOレバーを中立にして、爪軸を回転させずに行います。
4. 土寄せは、土を少しづつ何回にも分けて引き寄せるようにしてください。一度に多量の土を引き寄せるると、土が移動し過ぎて、逆に高低差をつける結果となる場合があります。又、エプロンが曲がるおそれもあります。

### 取扱い上の注意

耕うんしていない固い土や、水を入れていない圃場（乾田）や、バックによる土寄せは絶対にしないでください。

5. 土寄せが終わり、代かき作業に入る時は作業機を持ち上げ、ロックレバーを持ち上げ、フックを外します。その状態で作業機を下げるときレベラーが持ち上がり、ロックが解除されます。

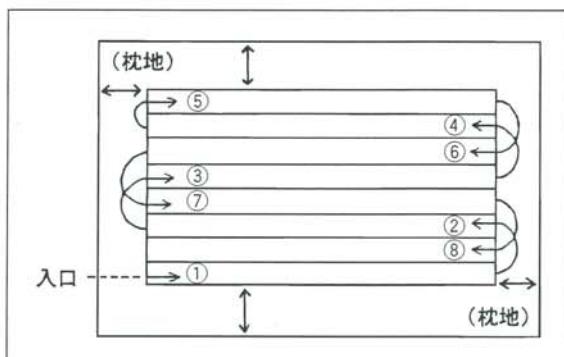
## ⑥ 代かき作業

代かき作業は、土の移動を少なくするために急旋回をさせて、1畠おきに行うのが一般的です。

①旋回用の枕地として、2行程分の作業幅を残し、又、側面も2行程分の作業幅を残して代かきを始めます。

②③④とは1行程分の作業幅を残して、旋回半径を大きくして1畠おきに往復作業をしてください。

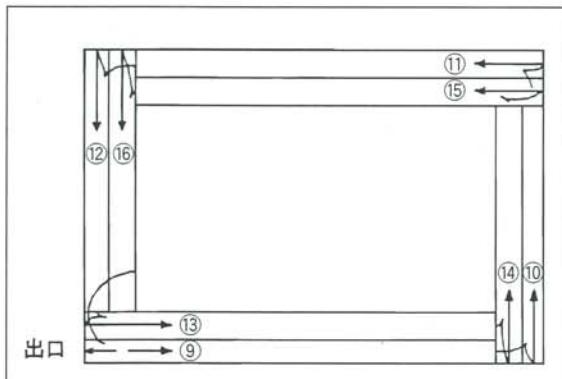
⑤側方に2行程分の作業幅を残して折り返し、残った⑥⑦⑧の畠の作業をします。



⑨⑩⑪⑫と畦ぎわを回り耕します。

残耕を少なくするため、左回りで、エクステンションレベラをたたみ作業をします。

⑬⑭⑮⑯とエクステンションレベラをもとに広げて作業をして終了となります。

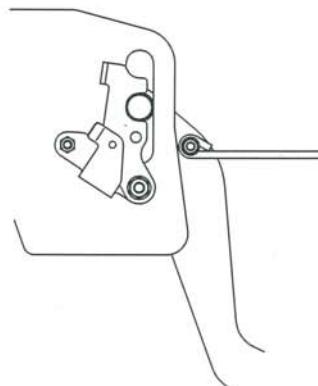


## ⑦ エプロンの固定操作

エプロンをスイングさせず固定しての作業もできます。水平、右上がり、左上がりの3段階に調節可能です。

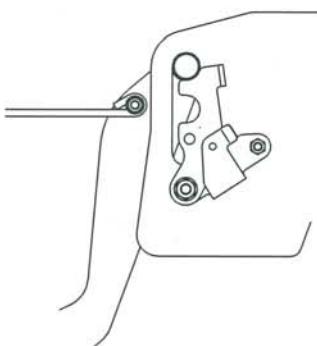
### 1. 水平

エプロン両側のロックプレートを下図の位置で固定します。



### 2. 右上がり

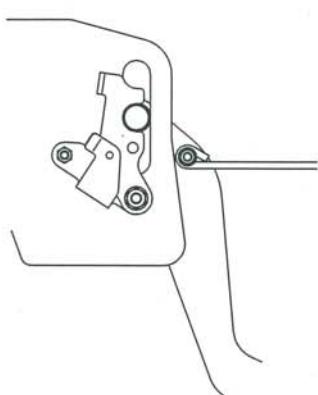
エプロン右側のロックプレートを下図の位置で固定します。



### 3. 左上がり

エプロン左側のロックプレートを下図の位置で固定します。

あぜ際の土出し作業に有効です。



# 代かき爪の取付け

## ① 爪の種類と本数

規 格		型 式	PC 168	PC 188	PC 208
代 か き 爪	G1755	R	17	20	22
		L	17	20	22
	G1756	R	3	3	3
		L	3	3	3
取 付 ボ ル ト	M12×26 P1.5 8T		40	46	50

## ② 代かき爪取付方法

パディーハロー代かき爪取付方法は、後方より見て爪ホルダの六角穴が左側のものは、G1755R、G1756Lを、六角穴が右側のものはG1755L、G1756Rを取付けてください。

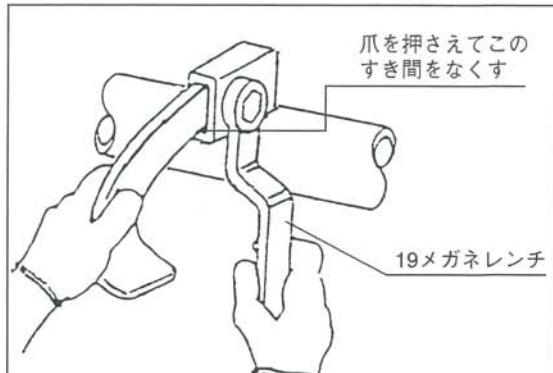
◆爪の交換は、一度に全部外して交換するのではなく、1本ずつ外して同じ形状刻印の爪を取付けていくと、配列の誤りはなくなります。

### 取扱上の注意

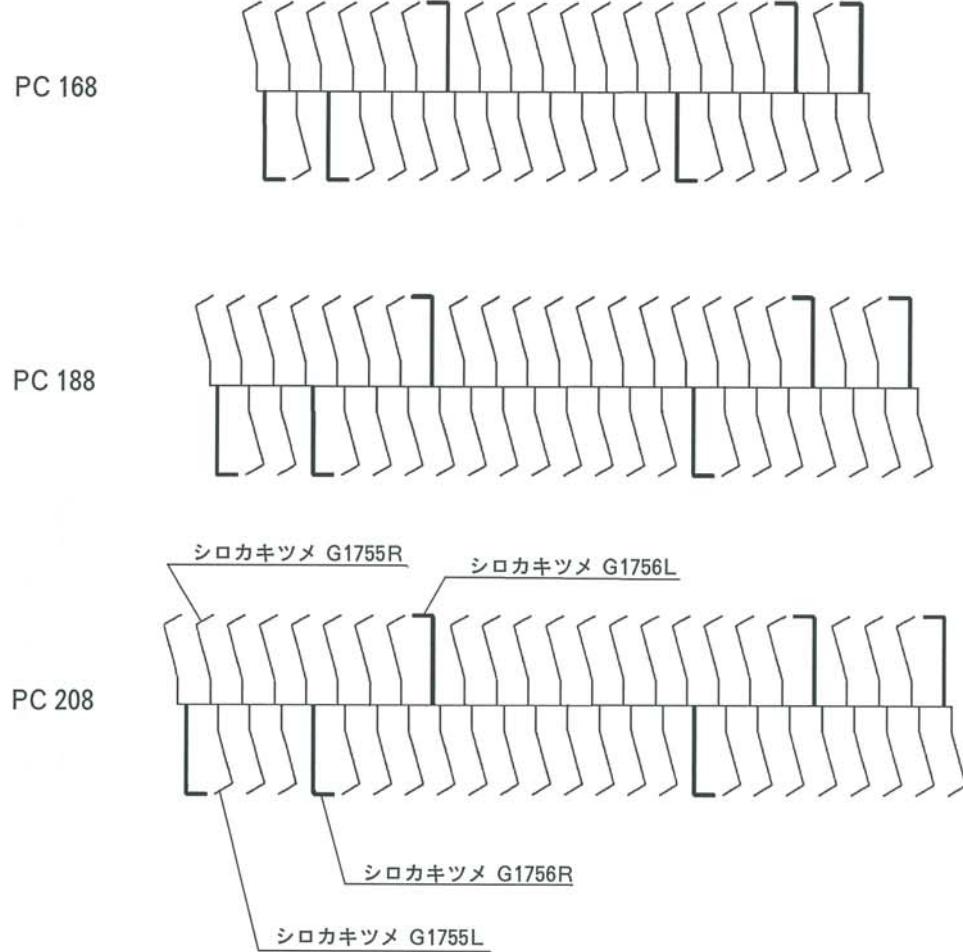
- 爪の配列を誤りますと、異常な振動が発生したり、又、仕上がりが悪くなったりしますので注意してください。
- 爪はしっかりと締め付けてください。新しく交換した場合は、緩みやすいので作業1時間で増し締めをしてください。
- 爪が摩耗しますと作業性能が悪くなってしまいます。早めにコバシ純正爪と交換してください。

### ▲ 注意

- 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、且つ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
- エプロン、レベラもしっかりと固定して落下しないようにしてから行ってください。
- ボルト、ナットを緩めたり、締め付ける場合は、19のメガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
- 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。



### ③ 爪配列図



# 保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

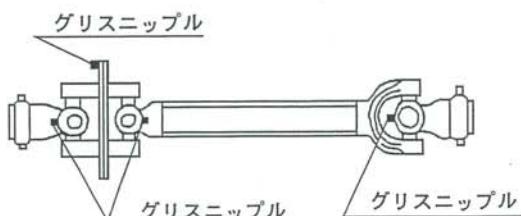
## ⚠ 警告

トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

## 2. グリスの給油

- ① ジョイントは分解して、スリーブのかみ合い部分に、グリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルに適量注入してください。
- ② トラクターのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。



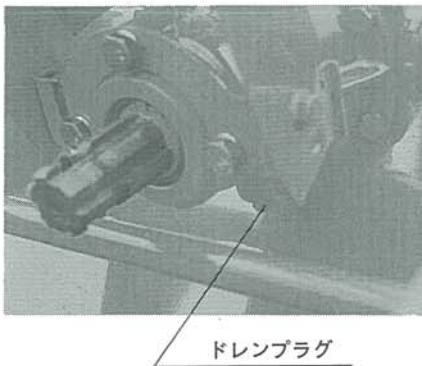
## 3. 給油と交換

下記の基準で実施してください。

点検項目	種類	オイル量	交換時間	
			1回目	2回以後
デフキャリア	ギヤーオイル #90	0.7 ℥	50 時間	150 時間毎
チェンケース	ギヤーオイル #90	0.3 ℥	50 時間	150 時間毎

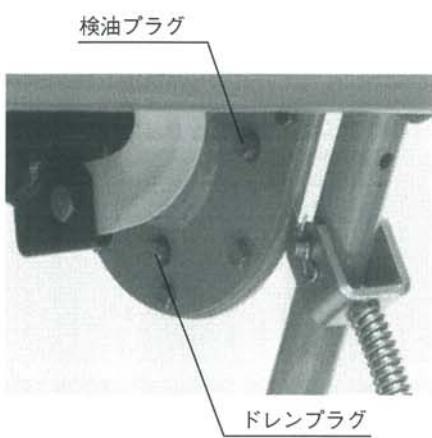
### ① ギヤーケースのオイル交換の仕方

ドレンプラグを外してオイルを出します。オイルが抜けたらドレンプラグにシールテープを巻きしっかりと締め付けてください。ギヤーオイルを給油口から規定量(0.7 ℥)入れてください。



### ② チェンケースのオイル交換の仕方

ドレンプラグを外してオイルを出します。オイルが抜けたら、ドレンプラグをしっかりと締め付けてください。ゴムパッキンに変形や損傷がある場合は速やかに交換してください。ギヤーオイルを給油口から、規定量(0.3 ℥)入れてください。



### 3. オイルシールの組み替え

整備などの目的でチェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴム付座金パッキン、液状ガスケットと交換してください。オイルもれの原因となります。液状ガスケットはスリーポンド1208相当品を使用してください。

### 4. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることができますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

#### ▲ 注意 (高圧洗車機)

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例 1) シール・ラベルの剥がれ  
2) 樹脂類（カバーなど）の破損  
3) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



## 保管・格納

1. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
2. スタンドのキャスターのブレーキは必ずロック状態で保管してください。



3. 格納後はみだりに子供などが触れないような処置をしてください。

## 点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品 使用始め	チェンケースのオイル量点検	8
新品 1時間使用後	全部のボルト、ナットを増し締め	8
新品50時間使用後	①ギヤーケースのオイル交換	17
	②チェンケースのオイル交換	17
毎日の作業前	①ギヤーケースのオイル量、オイル漏れの点検	8
	②チェンケースのオイル量、オイル漏れの点検	8
	③代かき爪の取付ボルトの増し締め	15
	④ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	17
	⑤地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	9
毎日の作業後	①洗浄後、水分拭き取り	17
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	8
	③代かき爪、爪ホルダ等の摩耗、折損の点検	15
	④入力軸ヘグリス塗布	
	⑤ジョイント、スプライン部ヘグリス塗布	
	⑥ジョイント、ノックピンへ注油	9
	⑦可動部へ注油	
150時間毎 又は シーズン終了後	①ギヤーケースのオイル交換とオイルシール、パッキンの異常点検	17
	②チェンケースのオイル交換とオイルシール、パッキンの異常点検	17
	③ジョイントのシャフトへのグリス塗布	
	④安全ラベルの剥がれの点検	5
	⑤無塗装部へのサビ止め	
	⑥消耗部品の早期交換	

## 異常診断一覧表

使用中あるいは、使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。再使用せず、ただちに対策を行って下さい。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤー ケース	異 音 の 発 生	ペアリングの損傷	ペアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
	オ イ ル 漏 れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		ケース取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ペアリングの損傷	ペアリング交換
チェン ケース	異 音 の 発 生	テンションショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ペアリングの損傷	ペアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	軸付きシール、パッキンの劣化、損傷	軸付きシール、パッキンの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ペアリングの損傷	ペアリング交換

代かき軸	異音の発生	軸受部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		代かき爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		代かき爪の変形によるカバーとの干渉	代かき爪交換
	振動の発生	代かき爪軸の曲がり	代かき爪軸交換
		代かき爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		代かき爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	チェンの折損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
		ギヤーの破損	ギヤー交換
	オイル漏れ	軸付きシールの損傷	軸付きシール交換
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
	残耕の発生	代かき爪の摩耗、折損	代かき爪の交換
		代かき爪の配列不良	爪配列の点検
	異常な土寄りの発生	代かき爪の配列不良	爪配列の点検
ジョイント	異音の発生	グリス切れ	グリスアップ
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		パディーハローの上げすぎ	リフト量の規制
	たわみの発生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

## 用語解説

### アタッチメント

作業機に後付けする部品

### オートヒッチ

トラクターに乗ったままワンタッチで作業機  
を装着できるヒッチ

### クリープ

超低速の作業速度

### 耕深

耕耘する深さ

### 3点リンク

トラクターに作業機を装着するための3点で  
支持を行うリンク

### チェックチェン

トラクターに対し作業機が左右に振れる量を  
規制するチェン

### トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業  
機の上部を吊り下げているリンク

### 揚力

トラクターが作業機を上昇させるための力

### ジョイント

トラクターの動力を作業機へ伝達するための  
軸

### リフトロッド

トラクターが作業機を上げるためロアーリン  
クと連結しているアーム

### リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧  
装置が破損することを防止する弁

### ロアーリング

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機  
の下部を吊り下げているリンクで左右1本ず  
つある

### ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

# MEMO

# KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所 〒071-1248 北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番

☎ (0166) 49-0070

■東北営業所 〒024-0004 岩手県北上市村崎野13地割35-1

☎ (0197) 71-1160

■関東営業所 〒321-3325 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1

☎ (028) 687-1600

■新潟営業所 〒942-0041 新潟県上越市安江477-1

☎ (025) 546-7747

■岡山営業所 〒701-0165 岡山市北区大内田727

☎ (086) 250-1833

■九州営業所 〒861-2236 熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F

☎ (096) 286-0202